

無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集 (①無06-11-1/5)

目 的

無形文化遺産保護に関わる国際的動向の情報収集を図り、アジアを中心とする海外の研究機関等との研究交流を実施し、国内外の無形文化遺産保護に貢献する。

成 果

韓国国立文化財研究所との交流事業では、2011（平成23）年8月9日に東京文化財研究所において、以下の合同研究発表会を実施した。

研究発表内容

飯島満「日韓におけるアナログ音声資料の保存と活用」

林瑩鎮「韓国無形文化財保護制度の「種目」と「原型」」

高桑いづみ「日韓における楽器製作者の現状」

金仁圭「韓国と日本の重要無形文化財に関する制度の性格と方向 ―工芸分野を中心に―」

俵木悟「韓国における無形文化財の映像記録のアーカイブ化の現状」

林承範「日無形文化財映像記録の意味―日本千葉県「洲崎踊り」の映像記録を中心に―」

さらに、翌10日今後の研究交流のあり方についての協議を行った。それに基づいて、あらたな合意書を2011（平成23）年11月に締結した。

東南アジア諸国を中心とする無形文化遺産の情報収集では、11月に洪水直後のバンコクを訪問し、無形文化遺産関連施設・機関等の被害状況の確認を行った。

無形文化遺産分野の国際的情報収集では、以下の国際会議等に参加し情報収集及び研究発表等を実施した。

参加会議

2011（平成23）年

5月「樂安邑城のUNESCO世界遺産登載のための国際学術会議」韓国順天市

参加者：宮田繁幸 内容：発表及び情報収集

6月「2011年アジア太平洋無形文化遺産フェスティバル国際学術会議」韓国全州市

参加者：宮田繁幸 内容：発表及び情報収集

8月「中日韓非物質文化遺産保護比較研究国際シンポジウム」中国広州市

参加者：宮田繁幸 内容：発表及び情報収集

11月「無形文化遺産保護条約第7回政府間委員会」インドネシア バリ島

参加者：宮田繁幸、今石みぎわ（無形文化遺産部）、二神葉子（企画情報部） 内容：情報収集

2012（平成24）年

2月「国際人類学民族学連合 無形文化遺産委員会」メキシコ クエルナバカ

参加者：宮田繁幸 内容：発表及び協議

論文

・飯島満「日韓におけるアナログ音声資料の保存と活用 ―SPレコードを中心に」『日韓無形文化遺産研究』 pp.30-48 韓国国立文化財研究所・東京文化財研究所 11.11

・高桑いづみ「日韓における楽器製作者の現状 ―重要無形文化財と選定保存技術のはざまで―」『日韓

①プロジェクト研究 Area2

- 無形文化遺産研究』 pp.78-112 韓国国立文化財研究所・東京文化財研究所 11.11
- ・ 俵木悟 「韓国における無形文化財の映像記録のアーカイブ化の現状」 『日韓無形文化遺産研究』 pp.142-174 韓国国立文化財研究所・東京文化財研究所 11.11
 - ・ 宮田繁幸 「岐路に立つ無形文化遺産保護条約」 『無形文化遺産研究報告』 6 pp.1-19 東京文化財研究所 12.3

発表

- ・ 宮田繁幸 「日本の世界遺産(無形文化遺産分野)登載現況と見通し」 樂安邑城のUNESCO世界遺産登載のための国際学術会議 樂安邑城専修教育館 11.5.12
- ・ 宮田繁幸 “The Safeguarding of Intangible Cultural Heritage in Japan” 2011年アジア太平洋無形文化遺産フェスティバル学術会議 全州文化センター 11.6.10
- ・ 宮田繁幸 「日本における無形文化遺産の保護」 中日韓非物質文化遺産保護比較研究国際シンポジウム 中山大學中国非物質文化遺産研究センター 11.8.2
- ・ 飯島満 「日韓におけるアナログ音声資料の保存と活用」 日韓無形文化遺産学術発表会 東京文化財研究所 11.8.9
- ・ 高桑いづみ 「日韓における楽器製作者の現状」 日韓無形文化遺産学術発表会 東京文化財研究所 11.8.9
- ・ 俵木悟 「韓国における無形文化財の映像記録のアーカイブ化の現状」 日韓無形文化遺産学術発表会 東京文化財研究所 11.8.9
- ・ 宮田繁幸 “Documentation of Japanese Intangible Cultural Heritage” 国際人類学民族学連合 無形文化遺産委員会 Centro Regional de Investigaciones Multidisciplinarias 12.2.25

刊行物

- ・ 『日韓無形文化遺産研究』 韓国国立文化財研究所・東京文化財研究所 11.11

研究組織

- 宮田繁幸、高桑いづみ、飯島満、菊池理予、今石みぎわ（以上、無形文化遺産部）、二神葉子（企画情報部）、俵木悟（客員研究員）